ぶらりわが街宮沢界隈

（40）シリーズ連載の追記・現状・構想　－Ⅰ－Ⅳ－Ⅰ－

◎「五鉄」五日市鉄道あれ、これ－「⑩「五鉄」五日市鉄道－Ⅰ～Ⅳ－」記載

平成27年（2015）4月開業90周年を迎えた、JR五日市線（旧五日市鉄道）は、大正14年（1925）4月21日に拝島～武蔵五日市間で営業を開始した民営鉄道で、次いで昭和5年（1930）7月13日市域に路線を延ばし拝島～立川間を開業した。市域の村々集落のすぐ北側のほぼ奥多摩街道に沿ったルートで、その間には「南拝島」・「武蔵田中」・「大神」・「宮沢」・「南中神」・「武蔵福島」・「郷地」・「武蔵上ノ原」（立川町字上ノ原）の8駅開設されました。それまでの市域の交通機関といえば、集落のはるか北方を走る青梅鉄道（明治27年（1894）11月19日に立川～青梅間開業）だけで、しかも駅は中神駅（明治41年（1908）7月19日開業）と拝島駅の二駅しかなく、客車は一両編成の「ガソリンカー」でまるでマッチ箱のようであり、駅は短い低床（ていしょう）ホームでしたが、「五鉄」の愛称で親しまれ村々の住民の足として利用されました。

昭和15年（1940）9月1日南部鉄道に吸収合併「南部鉄道五日市線」。19年（1944）4月1日太平洋戦争の激化により国有化「官鉄五日市線」＊国有化の理由－「生産資材の重点的輸送と産業戦士の足の確保」の軍事上の理由。さらに同日付けで「武蔵田中」・「宮沢」・「武蔵上ノ原」廃駅。同年10月11日付国より突然営業停止命令、青梅線と平行する拝島・立川間は無駄な不要不急線とされ休止。当初は復活を予定して一時的な措置でしたが、まもなくレールも撤去されそのまま廃止。開通からわずか14年極めて短命な鉄道でした。戦後には、21年（1946）10月休止中の旧五日市鉄道拝島～立川間の運転再開を沿線住民と利用者が請願、さらに24年（1949）8月南部鉄道が立川～拝島間の民間払い下げ（営業再開）の請願書を昭和町町議会に提出したが実現されませんでした。＊戦時中（18、19年）に国有化された全国22社全て国鉄として存続し、払い下げを求める動きは、全国各地に見らましたが一社も実現しなかったのです。

・　「五鉄」拝島～立川間が廃止の大きな理由―鉄道のレールで兵器を作ることでした。戦争のために金属が不足し、金属という金属は供出させられ、お寺の鐘まで持っていかれてしまう状況でした。レールに目をつけられた。＊「昭島の歴史」（昭島教育委員会発行）引用。と記載されていますが、証拠となる史料は無く事実は？一方、撤去レールは現「JR相模線」（橋本～茅ヶ崎間）・福井県の「えちぜん鉄道」（福井～三国港）に使用が判明されています。

・　駅名の由来は当時の地名「字（あざ）」から命名－「南拝島」（有人駅舎）起終点である拝島駅の南側に位置しているから。「武蔵田中」信越本線（現しなの鉄道）・田中駅（長野県）と重複のため武蔵を冠した。「大神」・「宮沢」の両駅は地名と同じ。「南中神」（有人駅舎）青梅鉄道（現青梅線）中神駅の真南に位置しているから。「武蔵福島」東北緑・福島駅と重複のため武蔵を冠した。地名は「ふくじま」と濁るが駅名は「むさしふくしま」。「郷地」地名は「ごうち」だが駅名は「ごうぢ」と濁る。「武蔵上ノ原」中央本線・上ノ原（山梨県）と重複のため武蔵を冠した。

（写真は上から旧宮沢駅跡、旧南中神の駅員、拝島駅1番線ホームにある五日市線起点票）

（文・写真）防犯宮沢支部　西山　禎一